

岩体が鉱床のすぐ近くに露出している点も注目される。鉱山の南側海拔 4600m 附近には エル・インディオとほぼ同時期に生成したとみられる自然硫黄の鉱床があるという。この地域では地形が急峻なために一つの鉱化作用の上下断面がいろいろな形で現われているのかもしれない。この地域の火成活動と鉱化作用についてより詳細な研究結果が公表されることを期待したい。

〈1983年4月7日記〉

参 考 文 献

Araneda, R. (1982): El Indio, yacimiento de oro, plata y cobre. Coquimbo, Chile. *Minerales*, 37, 5~13.  
 Imai, H. (1978): *Geological Studies of the Mineral Deposits in Japan and East Asia*. Univ. Tokyo Press 392p.  
 徳永正之 (1954): 鹿児島県枕崎地方春日鉱山・赤石鉱山の地質・鉱床, *鉱山地質*, 4, 205~212.

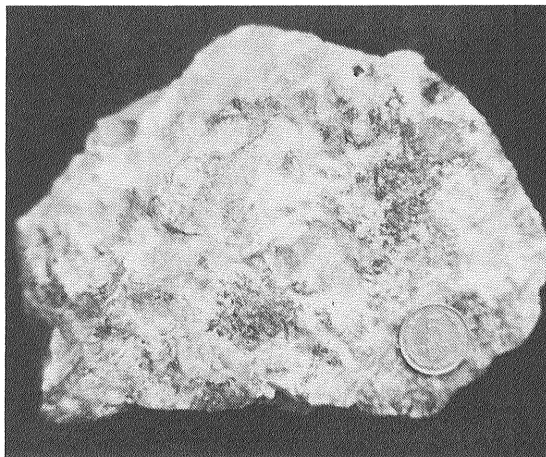


写真7 金鉱石の一例。  
 主に石英からなり微粒 (5~10 $\mu$ ) の金を含む。  
 暗色部は硫砒銅鉱, 5ペソ硬貨は直径 19 mm.

~~~~~ 地学と切手 ~~~~~



中国地質学会成立60周年切手

S. I.

中華人民共和国の地質学会は1922年に創立されたが 昨年60周年を迎え 外国人を招待して盛大な記念事業をおこなった。その一環として“郵政省”は金属鉱物4種 60周年記念切手1種を発売している。鉱物は中国の特産品から選ばれ いずれもチタン鉄鉱系花崗岩帯に特徴的に産出するものである。まず 世界的に最も著名なタングステン資源から鉄マンガン重石 ([Fe, Mn]WO<sub>4</sub>) が選ばれた。これは石英と共存する自形結晶で これは華南の鉱脈鉱床の晶洞性部分から産出したものであろう (20分は約30円)。

辰砂 (HgS) 輝安鉱 (Sb<sub>2</sub>S<sub>3</sub>) 石黄 (As<sub>2</sub>S<sub>3</sub>) も中国では華南を中心に多産する。輝安鉱は日本の市之川産の美晶には及ばないが 石黄は美事なものである。なお石黄はかつて雄黄とも呼ばれたが 雄黄は中国では鷄冠石 (AsS) を意味するので 混乱をさける意味で用いない方がよい。

